慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	『三田商学研究学生論文集』の刊行にあたって
Sub Title	
Author	岡本, 大輔(Okamoto, Daisuke)
Publisher	慶應義塾大学商学会
Publication year	2022
Jtitle	三田商学研究学生論文集 No.2021
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00113718-00002021--002

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

『三田商学研究学生論文集』の刊行にあたって

商学部長

岡　本　大　輔

現在はAIブームと言われています。その背景にはディープラーニングなどのAI理論の進化，コンピューターの処理能力向上，ビッグデータの蓄積などが挙げられますが，もう一つ注目されているのは，オックスフォード大学のカール・フレイ＝マイケル・オズボーンの「雇用の未来」という報告書です。この報告書によると，今後10年20年で，多くの職業がコンピューターに取って代わられてしまう，アメリカのデータでは，全部の雇用の47％が無くなってしまうとされています。これはとんでもない衝撃的な報告書で，世界中で有名になりました。2013年のことです。

この調査の基準となっているのは，それぞれの職業の知覚と操作（perception and manipulation tasks，非定型），創造的知識（creative intelligence tasks，創造性），社会的知識（social intelligence tasks，コミュニケーション能力）の3点で，これらのタスクの少ない仕事はコンピューター化が容易であるとされています。逆に言えば，このようなタスクはコンピューターにはまだまだ不得意分野といえます。

大学で学び，身に着けるべき能力は，実は正にこれらの能力です。まずは知識を身に着けることから始まりますが，知識だけでは膨大なコンピューターの記憶装置には太刀打ちできません。その知識を如何に活用するか，どのように考えるのかというモノの考え方が重要になります。論文の執筆活動はその集大成といえましょう。問題発見能力，問題設定能力，論理的思考能力，問題解決能力といった「自分の頭で考える」能力が求められます。

商学部の皆さんは日本のトップレベルの学生です。何がトップかというと，まずは偏差値ですが，これは入試で高得点がとれることを意味しており，すなわち，答えのある問題を解く能力に優れていると言えます。しかし，世の中で必要とされるのは，答えの無い問題に対し，どのように問題を設定し，どのように考え，どのように対処していくのか，という「自分の頭で考える」能力です。大学で授業を受

け，知識を増やし，仲間とコミュニケーションをとり，問題意識を明確化させ，自ら問題を設定して解いていく作業，これが論文作成の醍醐味です。

『三田商学研究学生論文集』は 1980 年の第 1 号以来，（応募はあったものの掲載論文無しという厳しい年もあったので）今回が 42 冊目となります。学生論文とはいえ，学会誌の研究論文と同様，過去の研究の渉猟，論理性と体系性，オリジナリティが厳しく審査され，それらに見事応えてくれた商学部生の珠玉の作品が毎年残されてきました。今回，厳しい審査基準を突破し，見事に論文を掲載することができた皆さん，誠におめでとうございます。また，掲載には至らなかったものの，学生論文集に応募してくれた皆さんも大変お疲れさまでした。間違いなく，論文作成の醍醐味を満喫され，皆さんの貴重な経験となり，「自分の頭で考える」能力が増強されたことと思います。

最後になりましたが，本論文集の審査員をお引き受けくださった先生方，商学会委員の先生方，商学会の皆様にこの場をお借りして感謝申し上げます。本論文集が，商学部の活性化に資するところ大となることを願って止みません。

2022 年 1 月